

科目名	社会科学講義実戦(政治・社会分野)						
科目名(英)							
単位数	2単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/30時間	担当者	岡田 広一郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員1次(教養)試験対策として、社会科学(政治・社会分野)の問題演習を行う。 1年次に習得した知識を、実戦を通して発揮できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会科学(政治・社会)の正確な知識が習得できているか確認を行う。	
		○				過去の本試験の問題演習において、正答率80%以上を達成できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【社会科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> <li>『絶対合格シリーズ【社会科学】テキスト編』(株式会社麻生キャリアサポート、2021年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	政治分野:「三権分立(1)」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	2	政治分野:「三権分立(2)」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	3	政治分野:「国会」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	4	政治分野:「内閣」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	5	政治分野:「裁判所」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	6	政治分野:「日本国憲法」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	7	政治分野:「地方自治」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	8	政治分野:「選挙制度」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	9	政治分野:「民主主義」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	10	政治分野:「政治制度」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	11	政治分野:「国際政治」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	12	政治分野:「基本的人権(1)」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	13	政治分野:「基本的人権(2)」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	14	社会分野:「労働事情」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
	15	社会分野:「社会保障・情報化・環境問題」			授業前に1年次に学習した内容を確認しておく。 授業後は授業中に取り扱った問題の復習を行う。		
評価方法	4～6月に実施する模擬試験における社会科学(政治・社会分野)の問題につき、その得点率を基に、100点満点に換算し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	各種受験先の問題演習を行う。それらの問題の比較検討を行うようにすること。 なお、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	社会科学講義実戦(経済)						
科目名(英)							
単位数	2単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/30時間	担当者	桑原賢		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	初級程度公務員一次試験に向けた社会科学の経済分野の問題演習の実施。1年時に身につけた知識を、実戦形式で発揮できるようにする。過去問演習を中心に小テストで知識の確認を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会科学(経済)の要点を理解し、公務員試験過去問題で正答率80%が達成できる。	
テキスト・教材 参考図書	・『絶対合格シリーズ【社会科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年) ・配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	市場・価格			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	2	企業			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	3	景気・物価			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	4	金融 1			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	5	金融 2			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	6	金融 3			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	7	試験問題解説			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	8	財政 1			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	9	財政 2			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	10	財政 3			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	11	為替・貿易			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	12	国際経済			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	13	経済指標			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	14	日本経済史			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
	15	経済学史			問題集の該当範囲を事前に読んでおくこと。「一問一答暗記テキスト 原点」の該当箇所を学習しておくこと。		
評価方法	4月～6月での模擬試験における社会科学(経済分野)の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点及び標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)の評価を行う。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	人文科学講義実戦(日本史)						
科目名(英)							
単位数	4単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/60時間	担当者	児玉 博基		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)での頻出単元である「人文科学(日本史)」での得点率を上げることを学習目標に掲げ、講義を行う。過去問演習を重ねることが「人文科学(日本史)」の攻略のポイントであると考え。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人文科学(日本史)の要点を理解し、公務員試験過去問題の解答で正答率80%が達成できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【人文科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> <li>『絶対合格シリーズ【人文科学】テキスト編』(株式会社麻生キャリアサポート、2021年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人文問題集 日本史 古代1				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	2	人文問題集 日本史 古代2				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	3	人文問題集 日本史 中世1				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	4	人文問題集 日本史 中世2				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	5	人文問題集 日本史 近世1				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	6	人文問題集 日本史 近世2				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	7	人文問題集 日本史 近代1				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	8	人文問題集 日本史 近代2				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	9	人文問題集 日本史 近代3				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	10	人文問題集 日本史 近代4				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	11	人文問題集 日本史 現代1				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	12	人文問題集 日本史 現代2				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	13	人文問題集 日本史 文化史				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
	14	人文問題集 日本史 横断問題1				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施	
15	人文問題集 日本史 横断問題2				履修内容のテキストまたは、過去問のいずれかを確認プリントとして実施		
評価方法	4~6月に実施する模擬試験における社会科学(政治・社会分野)の問題につき、その得点率を基に、100点満点に換算し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	人文科学講義実戦(世界史)						
科目名(英)							
単位数	4単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/60時間	担当者	松隈 達也		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験(過去問)を使用し、演習・講義する。おもに近現代史を演習・解説する。空間軸(ヨーロッパ/アジア)、時間軸(古代～現代)を解説し、流れを把握させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人文科学(世界史)の要点を理解し、公務員試験過去問題で正答率80%が達成できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【人文科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> <li>『絶対合格シリーズ【人文科学】テキスト編』(株式会社麻生キャリアサポート、2021年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	欧米古代史(ギリシア、ローマ)			『人文科学テキスト編』P.46-49を復習する		
	2	欧米中世史(フランク王国、ローマ教皇、十字軍など)			『人文科学テキスト編』P.50-55を復習する		
	3	欧米近世史(ルネサンス、大航海時代、宗教改革)			『人文科学テキスト編』P.56-58を復習する		
	4	欧米近世史(絶対王政、市民革命)			『人文科学テキスト編』P.58-63を復習する		
	5	欧米近代史(独立革命、フランス革命、ウィーン体制)			『人文科学テキスト編』P.64-68を復習する		
	6	欧米近代史(産業革命、帝国主義)			『人文科学テキスト編』P.68-75を復習する		
	7	欧米現代史(世界大戦)			『人文科学テキスト編』P.76-83を復習する		
	8	欧米現代史(冷戦)			『人文科学テキスト編』P.84-87を復習する		
	9	中国史(殷～唐)			『人文科学テキスト編』P.88-95を復習する		
	10	中国史(宋～明)			『人文科学テキスト編』P.96-99を復習する		
	11	中国史(清～中華人民共和国)			『人文科学テキスト編』P.100-111を復習する		
	12	中国史(近現代史)			『人文科学テキスト編』P.108-111を復習する		
	13	中国史(全体史)			『人文科学テキスト編』P.88-111を復習する		
	14	イスラム史			授業動画2022年2月イスラム史を再視聴する		
	15	アジア史			演習プリントの読み直しをする		
評価方法	4月～6月での模擬試験における人文科学(世界史)の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点および標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	人文科学講義実戦(地理)						
科目名(英)							
単位数	4単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/60時間	担当者	馬場 秀樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年生						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)での頻出単元である「人文科学(地理)」での得点率を上げることを学習目標に掲げ、講義を行う。過去問演習を重ねることが「人文科学(地理)」の攻略のポイントであると考えられる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		人文科学(日本史)の要点を理解し、公務員試験過去問題の解答で正答率80%が達成できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【人文科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> <li>『絶対合格シリーズ【人文科学】テキスト編』(株式会社麻生キャリアサポート、2021年)</li> <li>『新詳高等地図』(帝国書院、2021年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人文科学問題集 地理 1 気候・土壌・風①				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	2	人文科学問題集 地理 1 気候・土壌・風②				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	3	人文科学問題集 地理 2 地形①				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	4	人文科学問題集 地理 2 地形②				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	5	人文科学問題集 地理 3 地図・時差				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	6	人文科学問題集 地理 4 植生・農業				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	7	人文科学問題集 地理 5 産業・貿易・発電				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	8	人文科学問題集 地理 6 日本				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	9	人文科学問題集 地理 7 アジア・アフリカ①				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	10	人文科学問題集 地理 7 アジア・アフリカ②				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	11	人文科学問題集 地理 7 アジア・アフリカ③				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	12	人文科学問題集 地理 8 ヨーロッパ・アメリカ・オセアニア①				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	13	人文科学問題集 地理 8 ヨーロッパ・アメリカ・オセアニア②				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	14	人文科学問題集 地理 8 ヨーロッパ・アメリカ・オセアニア③				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
	15	人文科学問題集 地理 9 人口・海流漁業・環境・地名・民族				該当単元のテキストの内容を事前に確認しておくことが望ましい。	
評価方法	4～6月に実施する模擬試験における社会科学(地理分野)の問題につき、その得点率を基に、100点満点に換算し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	人文科学講義実戦(日本史・世界史・地理演習)						
科目名(英)							
単位数	4単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/60時間	担当者	桑原 賢		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験に出題される人文科学のうち、過去出題問題を教材として、歴史分野を中心に演習を行う。歴史的事象の要点を確認し、出題内容の正誤を見極めて得点する力を身に付ける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人文科学分野の要点を理解し、初級公務員試験過去問題で正解できる。	
テキスト・教材 参考図書	『絶対合格シリーズ【人文科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人文演習1			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	2	人文演習2			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	3	人文演習3			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	4	人文演習4			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	5	人文演習5			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	6	人文演習6			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	7	人文演習7			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	8	人文演習8			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	9	人文演習9			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	10	人文演習10			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	11	人文演習11			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	12	人文演習12			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	13	人文演習13			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	14	人文演習14			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
	15	人文総合演習			授業の復習、問題集のうち指定問題を解くこと。		
評価方法	4～6月に実施する模擬試験における人文科学(日本史・世界史・地理)の問題につき、その得点率を基に、100点満点に換算し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	自然科学講義実戦(数学・資料解釈)						
科目名(英)							
単位数	3単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/45時間	担当者	小島 俊宣		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)で「数学」及び「資料解釈」での得点率を上げることを学習目標に講義を行う。要点を踏まえ、過去問演習を中心に小テストで知識の確認を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				数学・資料解釈分野の要点を理解し、初級程度公務員試験過去問題の解答で平均正答率80%が達成できる。	
テキスト・教材 参考図書	・『絶対合格シリーズ【自然科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年) ・『絶対合格シリーズ【数的推理・資料解釈】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	数 学 1	さまざまな計算			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	2	資料解釈 1	実数と構成比①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	3	数 学 2	2次方程式と2次不等式			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	4	資料解釈 2	実数と構成比②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	5	数 学 3	2次関数①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	6	資料解釈 3	実数と構成比③			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	7	数 学 4	2次関数②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	8	資料解釈 4	実数と構成比④			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	9	数 学 5	三角比			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	10	資料解釈 5	指数と構成比①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	11	数 学 6	その他の分野			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	12	資料解釈 6	指数と構成比②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	13	数 学 7	総合演習			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
	14	資料解釈 7	増減率①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。	
15	資料解釈 8	増減率②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。		
評価方法	4～6月に実施する模擬試験における数学・資料解釈の問題につき、その得点率を基に、100点満点に換算し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	「資料解釈」は本来「自然科学」分野には含まれないが、「数学」との関連性が強く、数学と一体的に勉強することで相乗効果が期待できるため、自然科学講義実戦の中で取り扱うこととする。社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	自然科学講義実戦(物理・化学)						
科目名(英)							
単位数	3単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/45時間	担当者	大村 彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)で「自然科学(物理・化学)」での得点率を上げることを学習目標に講義を行う。物理・化学分野の要点を踏まえ、過去問演習を中心に知識の確認を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自然科学(物理・化学)の要点を理解し、公務員試験問題で正答率80%が達成できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【自然科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> <li>『絶対合格シリーズ【自然科学】テキスト編』(株式会社麻生キャリアサポート、2021年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	物理1 力					
	2	物理2 滑車・てんびん					
	3	物理3 物体の運動					
	4	物理4 力学的エネルギー・熱量					
	5	物理5 電気					
	6	物理6 波動①					
	7	物理6 波動②					
	8	化学1 物質の構造					
	9	化学2 モル・化学反応式					
	10	化学3 酸と塩基					
	11	化学4 酸化・還元					
	12	化学5 周期表					
	13	化学6 気体					
	14	化学7 気体の性質・溶解度					
15	化学8 金属の性質						
評価方法	4月～6月での模擬試験における自然科学(物理・化学分野)の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点及び標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)の評定を行う。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	自然科学講義実戦(生物・地学)						
科目名(英)							
単位数	3単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/45時間	担当者	大村 彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)で「自然科学(生物・地学)」での得点率を上げることを学習目標に講義を行う。生物・地学分野の要点を踏まえ、過去問演習を中心に知識の確認を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自然科学(生物・地学)の要点を理解し、公務員試験問題で正答率80%が達成できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【自然科学】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> <li>『絶対合格シリーズ【自然科学】テキスト編』(株式会社麻生キャリアサポート、2021年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	生物1 ①生体のつくり ②細胞分裂・生殖					
	2	生物2 ③遺伝					
	3	生物3 ④酵素 ⑤異化(呼吸・発酵)					
	4	生物4 ⑦刺激と反応					
	5	生物5 ⑧恒常性と調節(1)					
	6	生物6 ⑨恒常性と調節(2)					
	7	生物7 ⑥同化(光合成・窒素同化) ⑪生態系・進化					
	8	生物8 ⑩植物の反応・動物の行動					
	9	地学1 ①地球の内部 ⑩地球の歴史					
	10	地学2 ②地震 ③岩石・火山					
	11	地学3 ④大気構成					
	12	地学4 ⑤天気					
	13	地学5 ⑥地球の運動 ⑦太陽・月					
	14	地学6 ⑧太陽系の天体					
15	地学7 ⑨恒星と宇宙						
評価方法	4月～6月での模擬試験における自然科学(生物・地学分野)の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点及び標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)の評定を行う。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	文章理解講義実戦(和文)						
科目名(英)							
単位数	2単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/30時間	担当者	佐藤 美聡		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	文章読解を通して、幅広い教養を身に付ける。また、国語分野の学習を通じて豊かな表現力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本試験における標準レベルの問題(文章読解)について、正解に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級 ③文章理解・国語・文学・芸術 [第2版]』 (東京アカデミー、七賢出版株式会社、2017年)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	問題演習(内容合致・文章整序)、国語確認テスト					
	2	問題演習(要旨・空欄補充・その他)、国語確認テスト					
	3	問題演習(内容合致・文章整序)、国語確認テスト					
	4	作文①					
	5	問題演習(内容合致・文章整序)、国語確認テスト					
	6	問題演習(内容合致・文章整序)、国語確認テスト					
	7	問題演習(要旨・空欄補充・その他)、国語確認テスト					
	8	作文②					
	9	問題演習(内容合致・文章整序)、国語確認テスト					
	10	問題演習(内容合致・文章整序)、国語確認テスト					
	11	問題演習(要旨・空欄補充・その他)、国語確認テスト					
	12	問題演習(内容合致・文章整序)、国語確認テスト					
	13	総まとめ 問題演習5題、国語テスト					
	14	総まとめ 問題演習5題、国語テスト					
15	総まとめ 問題演習5題、国語テスト						
評価方法	7月の模擬試験における文章理解(和文分野)の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点及び標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)の評定を行う。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	文章理解講義実戦(英語)						
科目名(英)							
単位数	2単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/30時間	担当者	中尾 亜希子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験の一次試験(筆記試験)で「文章理解(英語)+英語(文法)」での得点率を上げることを学習目標に掲げ、講義を行う。英語分野の要点を踏まえ、過去問演習を中心に解法の伝授、イディオム・構文などの知識の確認を行う						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				文章理解(英文)、英文法において、正解を導くための解法・知識を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【文章理解】テキスト編』(株式会社麻生キャリアサポート、2021年)</li> <li>『オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級 ③文章理解・国語・文学・芸術 [第2版]』(東京アカデミー、七賢出版株式会社、2017年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	2	海上保安学校(特別)英文法過去問演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	3	海上保安学校(特別)英文法過去問演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	4	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	5	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	6	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	7	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	8	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	9	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	10	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	11	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	12	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	13	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	14	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
	15	文章理解(英文)英文2題演習(20分)・解説(30分)			【事後】授業内で出てきたイディオムを覚える		
評価方法	4月～6月での模擬試験における文章理解(英語分野)の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点及び標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)の評定を行う。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	判断推理講義実戦						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	船木 竜太		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験において過去に出題された判断推理の解法を学び、演習講義を通して判断推理の思考を身に付ける。問題を分析して課題処理を行い必要な解法を用いて問題を解く方法を実践的に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					単元別に必要な解法を理解し、判断推理問題を解くことができる。	
		○				問題を分析し課題処理を行い、判断推理問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	『絶対合格シリーズ【判断推理】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	論理分野 単元別演習 「対応関係」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	2	論理分野 単元別演習 「順序関係」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	3	図形分野 単元別演習 「折り紙」、「道順・位相」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	4	論理分野 単元別演習 「位置・方位」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	5	論理分野 単元別演習 「論理」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	6	図形分野 単元別演習 「展開図(1)」、「展開図(2)サイコロ」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	7	論理分野 単元別演習 「手順」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	8	論理分野 単元別演習 「数量推理」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	9	図形分野 単元別演習 「平面図形(1)」、「平面図形(2)」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	10	論理分野 単元別演習 「試合・勝敗」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	11	論理分野 単元別演習 「うそつき」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	12	図形分野 単元別演習 「軌跡」、「空間図形の分割」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	13	論理分野 単元別演習 「暗号」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
	14	論理分野 単元別演習 「集合人数」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習	
15	図形分野 単元別演習 「多面体・切断・回転」、「空間図形の投影」				授業範囲におけるテキストの問題の反復練習		
評価方法	4月～6月での模擬試験における判断推理の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点及び標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)の評定を行う。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	数的推理講義実戦 A				
科目名(英)					
単位数	2単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/30時間	担当者	梶村 勝治
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	公務員総合科2年				
授業概要	公務員試験において過去に出題された数的推理の解法を学ぶ講義を通して数学的思考を身に付ける。数量課題を自ら分析して理解し、必要な式を用いて問題を解く方法を実践的に学ぶ。				
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
		○			
学習目標 (到達目標)	目標 ○ 単元別に必要な定理、解法を理解し、数的推理問題を解くことができる。 ○ 問題を分析し、適切な計算式を用いて数的推理問題を解くことができる。				
テキスト・教材 参考図書	・『絶対合格シリーズ【数的推理・資料解釈】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年) ・オリジナル演習プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	場合の数①(数え上げと順列)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	2	場合の数②(数え上げと順列)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	3	場合の数①(順列と組合せ)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	4	場合の数②(順列と組合せ)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	5	確率①(順列と組合せ)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	6	確率②(順列と組合せ)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	7	確率③(排反・独立)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	8	確率④(排反・独立)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	9	確率⑤(反復試行・条件付確率・期待値)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	10	確率⑥(反復試行・条件付確率・期待値)			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	11	旅人算①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	12	旅人算②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	13	通過算①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	14	通過算②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	15	流水算①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	16	流水算②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	17	その他の速さ問題①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	18	その他の速さ問題②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	19	仕事算・ニュートン算①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	20	仕事算・ニュートン算②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	21	比と割合①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	22	比と割合②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	23	約数・倍数①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	24	約数・倍数②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	25	整数①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	26	整数②			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。
	27	数列・規則①			授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。

	28	数列・規則②	授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。				
	29	その他の数量問題①	授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。				
	30	その他の数量問題②	授業範囲についてテキスト・プリントの問題を反復練習する。				
評価方法	4月～6月での模擬試験における数的推理の総出題数を分母として、正答に達した割合(正答率)を算出する。この正答率を所定の基準(平均点及び標準偏差等)を用いて、100点を満点とした点数に換算する。その点数につき、成績評価として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)の評定を行う。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	数的推理講義実戦 B						
科目名(英)							
単位数	2単位 (1単位に相当)	時間数	15時間/30時間	担当者	甲斐 友康		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験に出題される知能分野のうち、過去出題問題を教材として、数的推理、判断推理の総合演習を行い、指定時間内に課題を解決する力を身に付ける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				知能分野の解法を理解し、初級公務員試験過去問題で正解できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『絶対合格シリーズ【数的推理・資料解釈】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> <li>『絶対合格シリーズ【判断推理】問題集編』(株式会社麻生キャリアサポート、2022年)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	判断推理 実戦演習 第1回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	2	数的推理 実戦演習 第1回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	3	判断推理 実戦演習 第2回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	4	数的推理 実戦演習 第2回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	5	判断推理 実戦演習 第3回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	6	数的推理 実戦演習 第3回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	7	判断推理 実戦演習 第4回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	8	数的推理 実戦演習 第4回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	9	判断推理 実戦演習 第5回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	10	数的推理 実戦演習 第5回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	11	判断推理 実戦演習 第6回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	12	数的推理 実戦演習 第6回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	13	判断推理 実戦演習 第7回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	14	数的推理 実戦演習 第7回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
	15	判断推理 実戦演習 第8回				問題集のうち、指定問題を解くこと	
評価方法	4～6月に実施する模擬試験における数的推理・判断推理の問題につき、その得点率を基に、100点満点に換算し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	適性一般知識演習実戦					
科目名(英)						
単位数	5単位	時間数	75時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	公務員総合科2年					
授業概要	事務適性試験演習を通し、事務処理能力を身に付ける。 また、事前に指定された範囲の暗記確認テストを受験し、知識科目の定着状況を確認する。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				事務適性試験を解き、処理速度をあげ、より正確に多くの問題を解くことができる。
	○					社会科学、人文科学、自然科学の基礎的な事項の確認を行い、出題に解答できる。
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィネット適性検査演習問題(全80回)</li> <li>・一問一答暗記テキスト2022年度『原点』</li> </ul>					
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	事務適性試験・一般知識演習1			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	2	事務適性試験・一般知識演習2			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	3	事務適性試験・一般知識演習3			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	4	事務適性試験・一般知識演習4			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	5	事務適性試験・一般知識演習5			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	6	事務適性試験・一般知識演習6			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	7	事務適性試験・一般知識演習7			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	8	事務適性試験・一般知識演習8			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	9	事務適性試験・一般知識演習9			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	10	事務適性試験・一般知識演習10			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	11	事務適性試験・一般知識演習11			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	12	事務適性試験・一般知識演習12			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	13	事務適性試験・一般知識演習13			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	14	事務適性試験・一般知識演習14			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	15	事務適性試験・一般知識演習15			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	16	事務適性試験・一般知識演習16			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	17	事務適性試験・一般知識演習17			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	18	事務適性試験・一般知識演習18			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	19	事務適性試験・一般知識演習19			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	20	事務適性試験・一般知識演習20			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	21	事務適性試験・一般知識演習21			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	22	事務適性試験・一般知識演習22			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	23	事務適性試験・一般知識演習23			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	24	事務適性試験・一般知識演習24			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	25	事務適性試験・一般知識演習25			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	26	事務適性試験・一般知識演習26			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	
	27	事務適性試験・一般知識演習27			一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること	



	73	事務適性試験・一般知識演習73	一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること				
	74	事務適性試験・一般知識演習74	一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること				
	75	事務適性試験・一般知識演習75	一問一答集のうち、指定した範囲を暗記すること				
評価方法	事務適性試験、一般知識演習試験の正答率を、100点満点に換算し総合評価。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	事務適性試験	◎	◎				80%
	演習試験	○	○				20%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員として、地域・国家の発展に貢献する人材となるため、志を立て、将来のキャリアビジョンを自分の言葉で表現する。そこで本授業では、成功者の考え方や力のある端的なメッセージに触れ、世界を取り巻く情報を知り、自らのあり方を考え、思いを言語化していく。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
						※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="checkbox"/>	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				<input type="radio"/>		考えることの大切さを知り、自らの考えを言葉で伝えられる。	
				<input type="radio"/>		目標の大切さ、志の大切さを知り、自らの行動方針を立てることができる。	
テキスト・教材 参考図書	GCB II テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1講座 グローバル・シティズンと志(1)					
	2	第1講座 グローバル・シティズンと志(2)					
	3	第3講座 自己を知る(1)					
	4	第3講座 自己を知る(2)					
	5	第2講座 なぜ志を立てることが大切なのか					
	6	第4講座 伝える力を学ぶ(1)					
	7	第4講座 伝える力を学ぶ(2)					
	8	第5講座 伝える力を学ぶ(3)					
	9	第6講座 与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる(1)					
	10	第6講座 与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる(2)					
	11	第7講座 自己の大切さと責任を自覚する(1)					
	12	第7講座 自己の大切さと責任を自覚する(2)					
	13	第8講座 GCB II 講座を経験し得たこと(1)					
	14	第8講座 GCB II 講座を経験し得たこと(2)					
15	第8講座 GCB II 講座を経験し得たこと(3)						
評価方法	単位取得のための出席要件を満たした上で、スピーチの発表やレポートの提出を以て評価を行う。評価条件を満たしている場合にはR評価(合格)とし、満たさない場合にはD評価(不合格)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表				<input type="radio"/>		60%
	レポート				<input type="radio"/>		40%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	公務員リテラシー実戦Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員となるために必要な事項について、総合的に理解し、実践する。公務員の仕事について理解を深め、自らの描くキャリアプランに基づいた就職活動を推進するための指針を得る。また、自己分析やそれに基づく模擬面接を行い、適切な自己表現について実践的に学ぶ。集団討論を実施し、グループでの役割について学ぶ。公務員試験において問われる教養や体力基準についての対策も行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		自己分析を行い、自己PRができる。	
	○	○				公務員の職種理解を深め、自らの適性に応じた進路選択ができる。	
	○	○				公務員になるために求められる基準を知り、基準を超えるための対策ができる。	
テキスト・教材 参考図書	授業に応じてレジュメを配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		1. 一般教養演習 18回					
		2. 文章力・表現力・作文 7回					
		3. 職種紹介ガイダンス 3回					
		4. 適性検査SPI 2回(※事務職種希望者選択)					
		5. 体力測定 2回(※公安職種希望者選択)					
評価方法	単位取得のための出席要件を満たした上で、レポートや課題提出を以て評価を行う。評価条件を満たしている場合にはR評価(合格)とし、満たさない場合にはD評価(不合格)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・課題	◎	○		○		100%
履修上の注意	2022年度の公務員試験実施内容によって、授業計画で示した授業内容に変更が生ずることもありうる。また、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	公務員リテラシー実戦Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員一次試験の後に、面接試験など二次試験に向けた知識の習得と、教養試験の理解度を深める授業を実施する。授業運営に関しては、前記の内容を2つのグループに分けて実施する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				教養試験で問われる知識を習得し、模擬試験で6割以上正答できる。	
	○	○				二次試験で問われる知識を習得し、効果的な自己PRができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格手帳(受験手帳)</li> <li>・高卒程度公務員試験過去出題問題</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		■面接試験対策グループ					
	1	【面接試験対策】①面接必要書類作成					
	2	【面接試験対策】②自己分析					
	3	【面接試験対策】③面接対応演習:個別面接					
	4	【面接試験対策】④面接対応演習:集団面接					
	5	【面接試験対策】⑤集団討論演習					
	6	【面接試験対策】⑥グループワーク演習					
		■筆記試験対策グループ					
	7	【筆記試験対策】①地方公務員試験型Ⅰ ※試験形式に応じた問題演習を実施。					
	8	【筆記試験対策】②地方公務員試験型Ⅱ ※試験形式に応じた問題演習を実施。					
	9	【筆記試験対策】③地方公務員試験型Ⅲ ※試験形式に応じた問題演習を実施。					
10	【筆記試験対策】④地方公務員試験型Ⅳ ※試験形式に応じた問題演習を実施。						
11	【筆記試験対策】⑤地方公務員試験型Ⅴ ※試験形式に応じた問題演習を実施。						
評価方法	面接試験対策グループは合格手帳(受験手帳)、筆記試験対策グループは解答マークシートの提出により評価を行う。評価条件を満たしている場合にはR評価(合格)とし、満たない場合にはD評価(不合格)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の評価方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物	◎	◎				100%
履修上の注意	社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	総合演習実戦						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	75時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員に必要なとされる教養と自己表現を総合的に身に付ける。「教養」については、実際に演習を行い、解説を受講する。出題頻度の高い問題を中心に、重要事項を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				初級公務員試験に出題される問題傾向を知り、その分析と対策ができる。	
	○	○				文章の書き方を身に付け、文章で自己表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務教育出版 学内模試</li> <li>・日本能率協会マネジメントセンター 文章表現力基本テキスト</li> <li>・麻生キャリアサポート 全国統一公務員模試、初級公務員試験過去問題(プリント)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		以下、全15回の模擬試験、過去問演習を行い、解説を受講する。					
		1. 国家一般職・税務職員採用試験過去問題 1回					
		2. 裁判所職員採用試験過去問題 4回					
		3. 刑務官採用試験過去問題 1回					
		4. 海上保安学校特別募集過去問題 1回					
		5. 海上保安学校・入国警備官・皇宮護衛官過去問題 1回					
		6. 学内模試 7回					
		以下、全15回の授業と演習を行う。					
		1. 文章表現力(文章表現の基本、自己分析など) 8回					
		2. 教養演習 7回					
	評価方法	模試点数結果(総合得点)を一定の点数に換算したものと、文章表現力レポートの提出によって、総合評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
模擬試験		◎	○				70%
レポート		○	○				30%
履修上の注意	2022年度の公務員試験実施内容によって、授業計画で示した授業内容に変更が生ずることもありうる。また、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	一般教養演習実戦 I						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	初級公務員採用試験の過去出題問題や、公務員模擬試験を教材として、一般教養試験の実戦的演習を行う。教養演習を通して制限時間内に最適解を導く力を身に付ける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				知識分野、知能分野の解法を理解し、初級公務員試験模擬試験で正解できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務教育出版 学内模試</li> <li>・麻生キャリアサポート 全国統一公務員模試、初級公務員試験過去問題(プリント)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
		以下、全30回の模擬試験、過去問演習を行う。					
		1.	国家一般職・税務職員採用試験過去問題	3回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		2.	東京都職員採用試験過去問題	3回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		3.	特別区職員採用試験過去問題	3回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		4.	警視庁警察官採用試験過去問題	2回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		5.	東京消防庁消防官Ⅲ類採用試験過去問題	2回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		6.	刑務官採用試験過去問題	2回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		7.	海上保安学校特別募集過去問題	4回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		8.	海上保安学校・入国警備官・皇宮護衛官過去問題	3回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
		9.	学内模試	6回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること		
	10.	全国統一公務員試験	2回	解答解説を確認し、知能科目の解き直しや知識科目の要点まとめをすること			
評価方法	模試点数結果(総合得点)を100点満点に換算した点数の平均成績で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがある。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	2022年度の公務員試験実施内容によって、授業計画で示した授業内容に変更が生ずることもありうる。また、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	一般教養解説講義 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	一般教養に関する問題演習と解説講義、自己分析や自己表現、集団面接や集団討論、グループワークなど、人物的評価の対象となる事項について、終日の授業で集中的かつ実戦的に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				公務員採用試験(一次試験)に合格できる点数を取ることができる。	
	○	○				自己分析に基づく自己表現ができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務教育出版 学内模試</li> <li>・麻生キャリアサポート 全国統一公務員模試、初級公務員試験過去問題(プリント)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		全5回の模擬試験、過去問演習を行い、講義を受講する。					
		1. 国家一般職・税務職員採用試験過去問題 2回					
		2. 刑務官採用試験過去問題 1回					
		3. 海上保安学校特別募集過去問題 2回					
		自己表現力を実践的に学ぶ。					
		グループワーク・自己分析など 5回					
評価方法	模試点数結果(総合得点)100点満点に換算した点数の平均成績で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	2022年度の公務員試験実施内容によって、授業計画で示した授業内容に変更が生ずることもありうる。 また、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	一般教養演習実戦Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	公務員試験の過去出題問題を本試験同様の時間設定で受験することで、得点力をつける。また、2次試験に向けた知識習得および実戦的演習を通して公務員試験合格に必要な力を身につける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				公務員試験標準レベルの問題について、60%の得点率に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート 全国統一公務員模試、初級公務員試験過去問題(プリント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		以下、全51回の模擬試験、過去問演習を行う。					
		1. 国家一般職・税務職員採用試験過去問題 8回					
		2. 裁判所職員採用試験過去問題 4回					
		3. 東京都職員採用試験過去問題 6回					
		4. 大阪府職員採用試験過去問題 1回					
		5. 特別区職員採用試験過去問題 6回					
		6. 警視庁警察官採用試験過去問題 3回					
		7. 東京消防庁消防官Ⅲ類採用試験過去問題 3回					
		8. 刑務官採用試験過去問題 8回					
		7. 海上保安学校特別募集過去問題 2回					
		8. 海上保安学校・入国警備官・皇宮護衛官過去問題 8回					
		9. 地域統一模試 1回					
		10. 全国統一公務員試験 1回					
	下記期間は2次試験対策の受講を選択できる。						
	※2次試験対策選択(9月26日～10月14日)						
	①面接必要書類作成						
	②自己分析						
	③面接対応演習:個別面接						
評価方法	8月1日～9月23日までの期間で実施する模試採点結果(総合得点)から換算した点数の平均成績で評価する。ただし、時事問題など本年度試験対応に適切でない問題については計算の基礎から除外する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				100%
履修上の注意	2022年度の公務員試験実施内容によって、授業計画で示した授業内容に変更が生ずることもありうる。また、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						

科目名	一般教養解説講義Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	70時間	担当者	梶村勝治/小島俊宣/桑原賢/甲斐友康/ 船木竜太/佐藤美聡/松隈達也/大村彩		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	公務員総合科2年						
授業概要	本試験同様の時間設定で受験した公務員試験過去問題の解説を、知能分野、知識分野に分けて受講する。出題頻度の高い問題を中心に、一般教養の重要事項について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				公務員試験標準レベルの問題について、60%の得点率に達することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・麻生キャリアサポート 全国統一公務員模試、初級公務員試験過去問題(プリント)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
		以下、全36回の模擬試験、過去問題の解説を受講する。					
		1. 国家一般職・税務職員採用試験過去問題 8回					
		2. 裁判所職員採用試験過去問題 3回					
		3. 東京都職員採用試験過去問題 3回					
		4. 大阪府職員採用試験過去問題 1回					
		5. 特別区職員採用試験過去問題 4回					
		6. 警視庁警察官採用試験過去問題 2回					
		7. 東京消防庁消防官Ⅲ類採用試験過去問題 2回					
		8. 刑務官採用試験過去問題 5回					
		7. 海上保安学校特別募集過去問題 2回					
		8. 海上保安学校・入国警備官・皇宮護衛官過去問題 5回					
		9. 全国統一公務員試験 1回					
評価方法	「模擬試験演習実戦」と同時期に実施する「確認テスト」(これは、既に実施済みの模擬試験演習実戦における模擬試験の振り返りテストである)の点数結果を成績評価の基礎とする。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。なお、遠隔授業に切り替わった場合は、上記の方法に代えて、レポート課題提出等の方法を採用することがありうる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	◎				100%
履修上の注意	2022年度の公務員試験実施内容によって、授業計画で示した授業内容に変更が生ずることもありうる。また、社会情勢の変化に伴い、回によって遠隔授業に切り替えて講義等を行う場合がある。						